

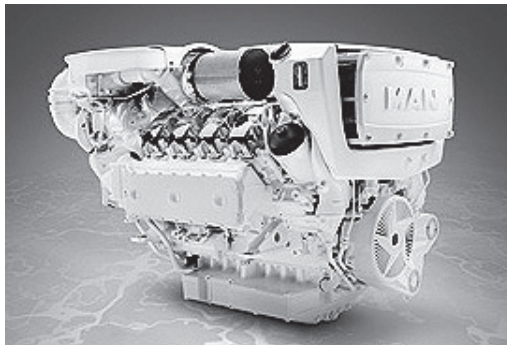
工作機械、産業機械のフロンティア 株式会社池貝ディーゼル(茨城県)



高田 明 社長



串間 清彦 取締役



MANディーゼルエンジン「V8-1200軽負荷用」

今回は工作機械、産業機械、エンジンの3事業を展開する「株式会社池貝ディーゼル」取材した。代表者は高田 明(たかだ・あきら)代表取締役社長。本社所在地は〒311-3501 いばらきけんなめがたし茨城県行方市芹沢920-52、☎0299-55-3951。

池貝グループ企業として、コンピューターを用いて数値制御を行い高精度・精密部品を加工するCNC旋盤などの工作機械、押出成形機などの産業機械に関して、開発から設計、加工・組立、販売まで一貫して取り組んでいる。

また、ドイツのMAN(マン)社日本輸入総代理店として、船用の高速ディーゼルエンジンを防衛省、海上保安庁、警察庁などに納入している。

生産・営業拠点として、「本社・ツクバ工場」「東京営業所(横浜市鶴見区江ヶ崎町、☎045-580-3633)」「分工場(広島県因島市重井町、西日本エンジンサービス株式会社内、☎0845-24-3456)」を配置し、「誠実、進取」をモットーとして掲げて独自の製品開発に取り組む池貝ディーゼルを紹介する。

創業の経緯

老舗の鉄工メーカー「株式会社池貝」の100%出資子会社として、平成17年(2005年)1月1日付けで「株式会社池貝ディーゼル」は誕生した。池貝からエンジン事業を分離し、分社化する形で、池貝ディーゼルは設立された。池貝ディーゼルの前身である池貝は、明治22年(1889年)5月、創業者である池貝 庄太郎(いけがい・しょうたろう)氏により、旋盤などの工作機械を製作する個人商店として

東京・三田に設立された。今年で設立126年を迎えた。

池貝では、創業当初より、顧客の要望を受けて一品一品異なる特殊仕様の工作機械、産業機械の開発・設計・製造に取り組んできた。その後、工作機械、産業機械、発動機、印刷機械などの開発・製造事業のほか、そうした機械の駆動源として使用されるエンジンの開発・製造事業にも参入していった。

事業の拡大に伴い、明治39年(1906年)6月1日付けで「合資会社池貝鉄工所」となった。その後、大正2年(1913年)4月1日付けで「株式会社池貝鉄工所」、昭和24年(1949年)7月1日付けで「池貝鉄工株式会社」、平成3年(1991年)6月1日付けで「株式会社池貝」に社名を変更して、今日に至る。

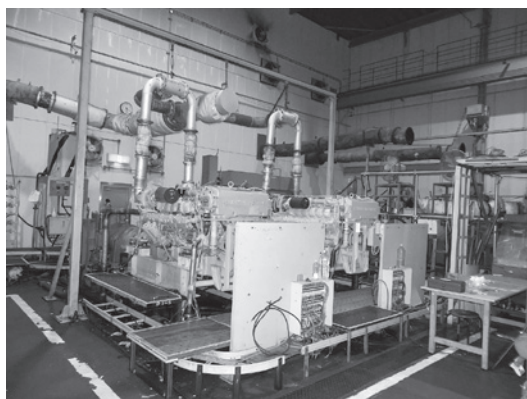
製品の変遷

池貝ディーゼルの前身である池貝では、明治23年(1890年)末、国産第1号旋盤である「英式9フィート旋盤×2台」を製作した。

明治29年(1896年)には、ドイツ製品を参考として、「三馬力半堅形石油エンジン」を製作した。明治30年(1897年)には、国産第1号となる「船用石油エンジン」を開発した。

明治33年(1900年)、「クリンピング巻きたばこ製造機」を製作し、ヒット製品となった。明治36年(1903年)には、焼玉式横形「T&I式」石油エンジンを製作した。明治45年(1912年)には、「池貝式高速度旋盤」、「船用池貝式標準発動機」を製作した。

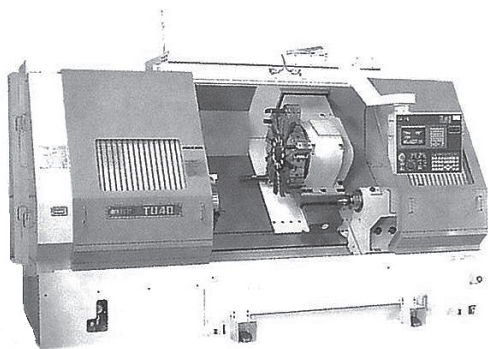
大正2年(1913年)春、「高圧無点火式発動機(セミディーゼル機関)」を開発し、単気筒8馬力50台、



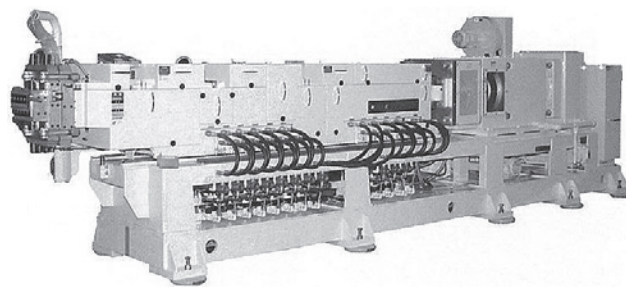
エンジンの試運転テスト装置



ツクバ工場の内部



CNC旋盤ユニバーサルタイプ「TU40」



二軸押出機「PCM-HITSシリーズ」

単気筒5馬力20台、2気筒8馬力1台を納入した。それにより、全国に池貝製発動機の名声を高めることとなった。

ディーゼルエンジンの製造に関しては、大正9年(1920年)、国産初となる「空気噴射ディーゼル機関(単気筒40馬力)」を開発した。4サイクル式トランク・ピストンを用いて、空気圧搾機は2段式もしくは3段式を採用した。大正15年(1926年)には、国産初となる「無気噴油ディーゼルエンジン」を開発し、昭和2年(1927年)には、「船用SD形無気噴油ディーゼル機関(船用600馬力)」を開発した。

印刷機械の製造に関しては、大正15年(1926年)、国産1号となる「高速度新聞輪転印刷機」を開発し、東京朝日新聞社に納入した。昭和9年には、「18万刷高速度輪転印刷機」を開発し、大阪毎日新聞社に納入した。

戦後の高度経済成長の時代、工作機械については、鉄道車輛用のクランク軸や車輪を加工するための大型旋盤を開発し、鉄道会社から受注を獲得していった。また、電力会社向け大規模発電設備を製作するための大型特殊旋盤などを開発し、重電メーカーからの受注が増加した。さらに、自動車工場向けプラスチック押出成形機、新聞社向け印刷機械といった産業機械についても他社にさきがけて次々と製品化を実現し、販売台数を順調に伸ばしていった。

設立80年を迎えた昭和44年(1969年)時点で、池

貝全体の売上高に占める製品別シェアは、工作機械が62%とシェアが最も大きく、産業機械18%、印刷機械14%、船用を中心とするエンジン6%の順となっている。

販売注力する製品

池貝では、今後販売拡大していく製品として、工作機械事業に関しては、**CNC旋盤ユニバーサルタイプ「TU40」**をあげており、機械加工工場向けに積極的に売り込んでいく。

産業機械事業に関しては、**高速回転の二軸押出機「PCM-HITSシリーズ」**の販売に注力していく。

エンジン事業に関しては、同事業の売上高に占める陸用エンジンのシェアを現在の15%から、今後2年計画で30%にまで拡大していく。内発協が定める自家発電設備の**出力100kW以下のSクラスに加え、100kW超～500kW以下のMクラスの発電設備に搭載されるディーゼルエンジン、ガスエンジン**を発電設備メーカーに対して、積極的な営業を展開していく。

池貝全体の売上高に占める製品別シェアに関しては、直近の実績で、産業機械50%、工作機械30%、エンジン20%であったシェアを、長期的には、工作機械50%、産業機械30～35%、エンジン15～20%へと移行させていく方針としている。